

語 研 便 り

大東文化大学 語学教育研究所広報（2020 年 11 月）

研究発表会のお知らせ

2020 年度、第 2 回研究発表会を下記のとおりオンラインで開催いたします。
ふるってご参加くださいますよう、ご案内申し上げます。

記

日 時 : 2020 年 11 月 30 日(月) 午前 10 時 30 分～

参加方法 : 本発表会は学内限定で Zoom を使用して開催します。
Zoom の URL、ミーティング ID 等は別途メールでお知らせします。
ご不明な点は、語学教育研究所までお問い合わせください。

①発表者 : 福永 美和子 先生 (外国語学部 英語学科)

題 目 : 戦後ドイツ司法によるナチ犯罪追及
— 占領期から今日までの展開とその所産 —

②発表者 : 趙 葵欣 先生 (外国語学部 中国語学科)

題 目 : 現代中国語における動詞の同語反復文の解釈
— 独用タイプにある副詞「就」を中心に —

③発表者 : 上田 裕 先生 (外国語学部 中国語学科)

題 目 : 認識的变化表現の日中対照
— 比較の状況を中心に —

※要旨は次ページに掲載しています。

① 発表者： 福永 美和子 先生（外国語学部 英語学科）

題 目： 戦後ドイツ司法によるナチ犯罪追及
— 占領期から今日までの展開とその所産

内 容： 第二次世界大戦後のドイツは、ナチ支配下で行われた非人道的犯罪を自国の司法によって裁いてきた。75年にわたる訴追活動は、ナチ時代の「過去の克服」の主要領域のひとつであり、今日では戦争や大量虐殺を経験した国・地域の社会再建および移行期司法のモデルとしても注目されている。本発表では、西ドイツ・統一ドイツ（占領期の西側地区とドイツ連邦共和国）司法を中心に、戦後のナチ犯罪追及の展開を概観し、それがもたらした成果と問題点を論じる。

② 発表者： 趙 葵欣 先生（外国語学部 中国語学科）

題 目： 現代中国語における動詞の同語反復文の解釈
— 独用タイプにある副詞「就」を中心に—

内 容： 様々な言語に見られる同語反復文（tautology）は、独特な構文が注目されており、特に名詞の同語反復文には多数の先行研究がある。本発表は現代中国語における独用タイプの動詞同語反復文（迟到就是迟到）を研究対象とし、「言い切り」の意味を表現する際は、副詞「就」が必要だと指摘した上で、なぜ「就」がないとこのような解釈ができないかの理由も検討した。動態カテゴリー化の視点から話者は「就」を用い、曖昧にされたカテゴリーの境界線を明確化するたびに、「言い切り」の意味が生じると主張する。

③ 発表者： 上田 裕 先生（外国語学部 中国語学科）

題 目： 認識的变化表現の日中対照 — 比較の状況を中心に—

内 容： 「この部屋は丸くなっている」という文は、変化動詞「なる」を含むにもかかわらず、部屋が円形であるという単純状態を叙述できる。その理由について、先行研究では、「部屋は四角い」という期待や基準からの逸脱が主観的に「変化」ととらえられるためと説明されている。本発表では、このような実際の変化を表さない「なっている」文の成立条件について、比較文を中心に、中国語の変化を表す文末助詞“了”を用いた文と対照して考察する。

[お問い合わせ先] 語学教育研究所 E-mail : daitogoken@gmail.com

以上